

新規就農者は今日も畑で伸びをする

菅沼農園 代表 菅沼祐介

この大地が私のオフィス。今日もパソコンや書類、上司ではなく、作物と向き合って仕事を進めていく。作物から少し目を離すと、目の前には美しい景色が目飛び込んでくる。その景色を見ながら、冷えた麦茶をゴクリと飲み、クーッと伸びをしてまた仕事に戻る。

私は、山梨県は甲府市の旧中道町地域という土地に大学卒業後、地元東京都府中市から移住して今年で6年目、農家になってから5年目の年をむかえています。就農へと自分が歩み始めたきっかけは、2014年2月に関東周辺を襲った豪雪の際、農業ボランティアを組織したことに遡ります。当時、学生だった私は就職活動中、豪雪により山梨県の農家のビニールハウスが9割倒壊しているというニュースを見て、自分に何かできることはないだろうか、知ってしまったからには行動すべきだと思い、知人たちと雪かきのボランティアを組織して活動を始めました。この行動がきっかけになり、現在住んでいる甲府市旧中道町地域に頻繁に援農に行くようになります。その中で、大学の講義で学んでいた農業の問題点が本当に起きていることを知り、知ったからには解決する方法はないかと考えた結果、「若手が1人でも地域に就農すればそれを機にムーブメントが起きるかもしれない」、と結論づけた私は、自ら就農してやれることをやってみよう、となった訳です。

こうして移住新規就農という道に進み、今に至るわけですが、離農することなく、むしろ農業に魅力を感じているのが現状です。この理由を共有してみますので、若者の思考の一例としてご笑覧していただき、就農者の引き込みや支援、就農への興味の一助になればと思います。では、3つほど紹介します。

1つ目に、責任は基本全て自分にあることです。目的を自分で設定し、達成できるかできないかは自分次第。このシンプルさが刺さりました。そして、目的に沿って社会奉仕的な側面、つまり誰かのためになることも意識して、実行できることも仕事としての農業へのモチベーションの維持につながっていると思っています。

2つ目に、資本の運用のしやすさと成果の出るスパンが短いことです。自分で生み出す資本がメインなので、それをすぐに使うことができ、その結果作業の効率化や収益増に割とすぐにつなげる事ができる。これにより、仕事にやりがいが生れますし、いい意味で資本の獲得にも燃える事ができます。

3つ目に、仕事の結果得られる幸せで周りにも幸せをおすそ分けできる事です。得られる幸せとは作物の収穫の喜びであり、おすそ分けとは食べてもらう事です。作物がおいしければ食べた方はパッと笑顔になる。この瞬間を作れていることに、やりがいを感じます。

さあ、残り少なくなってきましたので、最後に一言だけ。農業に先行きはない？ 楽しくない？ つらい？ いえ、最高の生業だと思いますよ。では、私はまた畑に行きますので。

(すがぬま ゆうすけ)